

## 平成 30 年度学校評価のためのアンケート分析結果

### (生徒)

#### 1 学習に関すること

「授業に満足している」については、全学年ともに8割以上の評価である。「学習内容に関して、興味・関心がある」「習熟度学習は効果的である」については、1・2年生では8割以上の評価である。特に2年生は、昨年よりも大きく上昇している。2年次からより専門的な分野に分かれて学習することで、意欲が高まっていると伺える。一方、3年生は7割に落ちているが、本校の学習指導形態に慣れたことで、普通に感じられるようになったのではないかと考えられる。「朝ゼミや検定対策は、学力定着に役立っている」については、全学年ともに評価が低い(全体で47.7%)。ゼミや検定対策の目的をしっかりと伝えることや、生徒が何を望んでいるかを調査するなど、運用面の改善を図る必要がある。

#### 2 生活面に関すること

「ルールを守る・学校行事への参加・清掃活動」については、それぞれ全体的に評価が高く、生徒が理解して取り組んでいることが伺える。一方、「悩みを相談できる先生がいる」については、6～7割の評価となり、3～4割の生徒が相談できる先生がいない状況である。特別支援教育支援員の活用促進や教育相談の在り方を検討したい。進路指導についての項目では、それぞれ8割前後の評価があり、3年間を通してよく指導がなされていることが生徒に伝わっているのではないかと感じる。

### (保護者)

全体的に良い評価を頂いており、学校の方針や指導に概ね保護者の理解を得られていると考えられる。「授業やゼミ、検定対策で学力がついてきている」については、79.2%と他の項目と比べて評価がやや低い。日々の積み重ねで検定試験合格や進路実現に結びついていることをPRする必要がある。「学校からの配布物は確実に届いている」についても、77.1%と評価が低く、生徒が確実に保護者へ渡すように指導を継続していきたい。